

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第13回）

日時：2020年5月8日（金）13:00～16:20

場所：新型コロナでの自粛により、オンライン「zoom」で開催

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・川上智子

内容：（1）狩野研究員の報告：斎藤喜博家所蔵資料について

1. 斎藤喜博氏の蔵書一覧表の写しを横須賀薫宮城教育大学名誉教授より入手
 - ・記録者は斎藤喜博氏の長女 草子氏と、次女によるB4判コピー用紙2冊
 - ・当面、この記録の文献をデータ化し、分類。研究上のキーワードを既出する
 - ・2020年4月13日時点で2390件入力済み→入力し整理中の添付資料あり
 - ・現地調査は草子氏と交渉中
2. 雑誌『教職研修』で、斎藤喜博に関して「みえることがすべてである」を発表

（2）仲田研究員の報告：翻訳作業中のガート・ビースタ著『Making Pedagogy Public』から、第9章の内容について報告

1. 「第9章 教育を公共的なものにする：公共のための教育、公共としての教育、公共性のための教育」
 - ・導入／公共圏の衰退／アレントの活動、複数性、自由／自由が現れるための空間／公共のための、公共としての、公共性のための？ 結論

・次回研究会は、6月12日13時から、オンラインZOOMで開催

上野研究員の発表のあと、2020年度の研究計画について、各研究員が補足説明